

人と人とのつながりを  
大切にしながら  
島の文化を伝えていく

企画や編集、発行まで、全て屋久島で行われている雑誌「屋久島ヒトメクリ」。その発行・編集人であり、「KITCHEN & CAFE ヒトメクリ」のオーナーでもある佐藤未歩さん。雄大な屋久島の自然はもちろん、方言や食生活といった島の文化を紹介し、次世代にも伝えるべき情報を島内外に広く発信していきたいと日夜奔走する佐藤さんに、雑誌を創刊した経緯や取材を通じて感じた人とのつながり、屋久島に対する思いなどについて伺った。

「屋久島ヒトメクリ」発行

編集人 佐藤 未歩さん

Miho Sato

## 「屋久島ヒトメクリ」 について教えてください。

平成21年11月に創刊して、年に三回旧暦の1・5・9月の16日に発行しています。この日は屋久島の「山ん神の日（山の神を祀る日）」に当たります。1ページめくるたびに小さな発見があったり、誌面を通じていろいろな「人」と出会ってほしいと、このタイトルにしました。

屋久島の自然だけでなく方言や食生活といった、屋久島で暮らす人々、屋久島に関わる人々の日々の出来事や発見感じたことなどを主に綴っています。親から子へ、子から孫へと伝わるような生活に根ざした情報を紹介することで、屋久島の文化の発展や継承につながってほしいという思いがあります。

創刊から3年経って、高校生やご年配の方など幅広く読んでいただいている



カフェで取材をする佐藤さん。世間話でもするように、自然に話を聞いていく。

という実感があります。また、この本を読んだことがきっかけで、「屋久島っていいな」と移住してくる方もいらっしゃるのでも励みになります。

平成23年には島内にカフェをオープンしました。実際に人と人がつながるような、みんなが集えるような場所にしたという思いがあったのですが、おかげさまで地元の方にたくさん来ていただけですごくうれしいですね。オープン当初は接客しながら編集作業もしていたので大変でしたが、カフェのスタッフが増えたのでかなり楽になりました。「屋久島ヒトメクリ」の創刊以前は、屋久島で発行されていた「生命の島」という情報誌の編集をしていました。仕事はすごく楽しかったですね。郷土料理などに食に関する取材が多くて、ご年配の方によく話を聞きに行っていました。私は移住2世になるので、祖父母が屋久島にいないんです。ですから屋久島ならではの文化は、私自身が積極的に行動して得るしかなかったんですね。

取材を通じて、ここで暮らしていく上でのマナーを自然と学んでいったような気がします。同時に多くの方と知り合うこともできました。「生命の島」の終刊後、お世話になった方々から「新しい本を出さないのか」「手伝うよ」と背中を押してもらい、「屋久島ヒトメクリ」を創刊することにしました。今でも当時からお世話になっている方も含めて、

多くの方々に支えてもらっています。

## もともとご出身は

### 栃木県だそうですね。

私が生後10カ月の時に、両親と栃木県から移住してきました。高校卒業後は東京でイラストの専門学校に進学し、そのまま写真関係の仕事をしていたのですが、23歳の時に島に戻ってきました。それから「生命の島」の編集に携わるようになりました。

中高時代はずっと島の外に憧れていたのですが、いざ東京で働くところ屋久島がすごく恋しかったですね。戻ってきて、あらためて屋久島が持つ生命力に気付いたような気がします。

私が中学生の時に屋久島が世界自然遺産に登録されたのですが、当時は島の人も含めてあまり意識していなかったような気がします。むしろ島外の方の屋久島を見る目が大きく変わって、それによって島の人の意識も変わっていったように感じています。

今では多くの観光客の方に来ていただけになりましたが、ほとんどの島の人は里に暮らしていて、山の問題、例えばゴミ問題やし尿問題など、私も含めてですが身近に感じている人が少ないかもしれません。少し強引にでも意識を向ける必要があるのかなと。それが今後の課題なのかもしれないですね。

## 佐藤さんが感じる

### 屋久島の一番の魅力は？

自然もちろん魅力的ですけど、やっぱり人だと思えますね。地元の方や移住してきた方など、取材でお会いする機会が多いからかもしれません。とにかく面白い人が多いと感じています。

屋久島は人のつながりがとても濃密です。東京にいる時には感じられなかったのに、島に戻ってきた時にはすごくそれがありがたかったですね。自分が必要とされている気がしたんですよ。少しだけわずらわしい時もあるんですけど、それは愛だと思おうので（笑）。屋久島に救われたと言ったら少し大げさかもしれませんが、それだけ懐の深い島だと感じています。

今後は、人のつながりが必要としている人がまだまだいっぱいいると思うので、さらにそのつながりを広げながら、地元の産業なども紹介して、屋久島の人の文化を伝えていきたいと思っています。



「屋久島ヒトメクリ」は現在11号まで発行中。定期購読も行っている。